

花 信

Kasin : The Shinshu University Library Bulletin

第10号 2001. 9

目次

大学教育と図書館	1	お知らせ	7
信州大学附属図書館の理念・目標	2	利用者の声から	8
平成12年度「信州大学附属図書館自己点検・評価報告書」概要	2	分館だより（繊維学部分館）	9
外国雑誌契約タイトルの遞減と信州大学における学術情報の危機	3	業務日誌	10
学外利用者への図書館の館外貸出実施	5	人事異動	11
新 Swet Scan について	6	学術情報・図書館委員会名簿	12

大学教育と図書館

繊維学部分館長 平井利博

学部生時代に図書館をどのように利用したかを振り返って見ると、殆ど記憶にない。恥ずかしながら、勉学に熱心でなかったことの告白になるかもしれない。しかし、通常の勉学に図書館の機能を必要としなかったという普通(?)の学生の印象でもあると考えている。図書館の機能をありがたいと感じたのは大学院に入ってからである。文献調査、文献の理解のための勉強などに不可欠の存在になった。それでも、院生の日常的な勉学の場としての図書館の記憶はない。

図書館のイメージが一変したのは、博士課程を終了後、米国で、多くの学部生が広々とした閲覧室の机を満席にして学習する姿を見てからである。それも、閉館時間の深夜12時近くまで、静粛に黙々と学習する姿は、全く信じがたいものであった。

最近、大学評価機構、大学基準協会、日本技術者教育認定機構などによる評価・認定が目白押しであり、それらの評価項目の中にも図書館の評価が含まれているが、日本の大学の図書館で充実しているものは増えてはいるが、数少ないように思う。我が信州大学も…、極めて厳しい状況である。図書館の機能を充実させ、学生へ優れた学習環境を提供することなどは貧弱な大学予算の中では無理だったかもしれない。それを理解しているためか、学生からの強い不満も、教員からの強い抗議もない。それは、かつて学生だった頃と同じく、図書館が、研究のためであって学生の学習の場としての機能が後回しになっていることを示している。学生も、相変わらず、学習の場としての図書館を必要としない(?) 学生生活を送っている。

勿論、ただ単に、十分な蔵書を備える利用しやすい立派な図書館を用意すれば良いという訳ではない。図書館が学生にとって有効に機能するためには、学習者が資料と調査を必要とするような教育内容を教員が開発することも不可欠である。現状はさらに深刻で、図書費そのものが、研究にさえも不十分な状況になりつつある。しかしながら、それでも、大学教育のあり方を直視して強力な対策を講じることが、図書館再生(大学教育再生?)のために必要である。生涯学習の浸透しつつある今、市民に広く開放して恥ずかしくない学習の場を提供できる図書館となるためにも。

(ひらい としひろ)

信州大学附属図書館の理念・目標

信州大学附属図書館の理念・目標について、昨年度から検討してまいりましたが、平成13年7月23日の学術情報・図書館委員会で下記の理念・目標が承認されました。今後はこの目標を達成すべく努力する所存です。利用者のみならず、そして関係者各位のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

理 念

信州大学附属図書館は、信州大学の理念に基づいて、学術情報・資料を整備して教育・研究の活動及び学習に資することにより、学術研究の発展、文化の振興及び人間形成に寄与する。また、信州大学附属図書館が長野県内4地域全てに拠点を持つ特色を生かして、地域社会に開かれた図書館の使命を果たす。

目 標

- 学術情報・資料を整備し、円滑な流通体制及び管理・保存・活用システムを構築する。
- 教育・研究及び学習のために、快適でゆとりのある利用環境を提供する。
- 学術情報・資料の利用に関して必要な支援を行う。
- 学術情報センターとして機能し、地域社会との知的交流に貢献する。
- 附属図書館の各館は、それぞれのキャンパスにおける教育・研究の支援を介して専門性を高めるとともに、協力連携して総合大学の図書館として機能する。

平成12年度「信州大学附属図書館自己点検・評価報告書」概要

2001年3月に、平成12年度「信州大学附属図書館自己点検・評価報告書」を発行しました。今回の報告書の特徴としては、前回より多様な統計や詳細な実態を掲載しています。本学図書館の現状は、巻頭に野村附属図書館長が記しているように未だ状態は改善されていません。ここでは次のように述べられています。

「平成10年7月に『信州大学附属図書館自己点検・評価報告書』が提出されて以来、この報告書に基づいて附属図書館の改善に向け努力してきた。しかしながら、他大学の附属図書館に比較して、信州大学附属図書館は、附属図書館の理念である「教育研究に資する」に関して、多くの点でその目標が達成されておらず、このことを解決するために、附属図書館の職員が一丸となって努力してきたが、図書館に関わる者の努力のみでは、附属図書館の大きな進展に結びついていない。そこで附属図書館の改善を目標に、再度自己点検・評価を行い、附属図書館の現状を知っていただくとともに、フィードバックすることにより附属図書館の本来の目的が達成できるものと考えた。」

本学図書館はサービスの部分においては、少ない職員数にもかかわらず他大学に比べ格段に劣ってはいません。しかし、全国各大学図書館の評価は数値的に判断できる蔵書数・年間受入図書冊数や貸出冊数などが基準とされており、サービスの基盤となる図書資料等の設備・座席数等の施設において本学図書館は極めて低い位置に留まっています。また、館内配架図書の目録閲覧入力も終了していない館室が未だある、極めて残念な状況となっています。このような実態となっている理由としては、本学図書館が全国他大学に例をみない7館室に分散設置されていることが原因の一つともいえます。

一方、近年のネットワークの進展や電子的データの増大が、距離的な諸問題を少なくしています。このため、本学図書館は各館室に特色ある電子・冊子体資料を充実させ、各館が専門分野を鮮明にして参考調査機能を強化してゆくことにより、それらを最大限に利用して7館室全体として本学の構成に対応した総合的サービスを展開する「ネットワーク型図書館の構築」を目指し、全国平均以上の図書館を目標としています。

☆ 平成12年度「信州大学附属図書館自己点検・評価報告書」をご覧になりたい方は、附属図書館各館室にお申し出ください。

外国雑誌契約タイトルの逡減と信州大学における学術情報の危機

1. 外国雑誌契約状況の動向

2002年度外国雑誌契約についての予約調査の結果がまとまりました。予約タイトル数は、前年度の契約タイトルから約300点減少しています。また、表1の通り、この5年間契約タイトル数は減少を続け、30%以上の減少となっています。

表1. 外国雑誌契約部数・契約金額(2002年は予約点数のみ)

部 局	1998		1999		2000		2001		2002
	金額	点数	金額	点数	金額	点数	金額	点数	点数
中央館	170,603	5	195,403	5	171,547	5	227,765	5	5
人文学部	3,975,125	159	4,682,477	154	4,019,615	164	3,404,437	141	131
経済学部	5,129,606	169	6,589,675	178	6,364,322	181	6,171,293	182	181
理学部	36,015,037	248	41,492,513	250	37,288,383	229	27,671,355	183	137
共通教育センター 留学生センター 教育システム開発センター 保健管理センター	6,448,498	166	6,297,637	160	4,856,023	114	4,677,044	97	80
共同購入							494,791	8	7
医学部・病院	43,808,721	529	49,814,352	514	43,048,594	455	44,517,147	432	370
医療短大	2,725,939	63	2,706,842	60	2,606,988	63	2,715,757	58	56
教育学部	8,271,348	207	6,494,970	182	5,635,523	177	4,693,906	141	62
工学部	29,848,855	264	32,708,335	252	25,746,840	217	24,175,164	205	150
農学部	9,387,047	146	10,549,406	143	7,479,496	132	7,750,440	122	113
繊維学部	37,464,550	207	34,341,426	165	17,014,164	105	16,955,314	107	106
計	183,245,329	2,163	195,873,036	2,063	154,231,495	1,842	143,454,413	1,681	1,398

また、雑誌購入経費負担増の要因の一つである重複タイトルは、総タイトル数1,398に対して104種204点、全体の17%に及んでいます。

雑誌価格が毎年10%以上上昇し、一方で予算は減少しているため、契約タイトルを維持できない状況が続いています。今後、教室に配分された予算を元に主として冊子体を購入するという従来の方法を続けたとすると、さらなる契約タイトルの減少は避けられず、本学における安定した学術情報の基盤を確保することが困難となることが予想されます。

2. 電子ジャーナルの活用

限られた予算の中で学術情報の基盤を維持するには、電子ジャーナルの有効活用が不可欠であると考えられます。ほとんどの電子ジャーナルは場所を問わず、常時利用することが可能ですので、キャンパスが離れていても冊子体を重複して購入する必要がなくなります。特に各地にキャンパスが分散している信州大学では、大きな効果が期待できます。2001年契約分より、下記の通り電子ジャーナルを利用した重複購入の調整を行っていますが、冊子体を継続して1部購入することにより、契約中止後のバックナンバーへのアクセスを確保することができます。

重複雑誌の調整方法

- ・経費 冊子体(1部)と電子体のセット契約とし、契約金額に諸経費(購入希望部数分の冊子体購入価格とセット購入価格の差額の10%)を加算した金額を購入者で按分して負担する
- ・冊子体はより利用が多いと想定される図書館に配架し、購入者は通常オンラインによる電子ジャーナルを利用する

現在図書館で利用できる電子ジャーナルは、以下のものがあります。

- ・冊子体の購入によって無料で利用可能なもの(Wiley社のタイトルは来年度より料金の上乗せを予定)
- ・冊子体の価格に電子ジャーナルの価格を上乗せしたもの(Science(旭キャンパスのみ)・Nature)
- ・電子ジャーナルのみ利用可能なもの(医学中央雑誌(旭キャンパスのみ))
- ・フルテキストが閲覧可能なデータベース(Pro Quest 約300タイトルでフルテキスト利用可)

上記のような形態のほか、各出版社はさまざまな機能を追加した有料の電子ジャーナルパッケージのサービスを行っています。それらのサービスでは、おおむね契約年度のデータと数年分のバックファイルを利用することができます。また、追加料金なしの電子ジャーナルにはない機能(発行前の論文へのアクセス、登録した雑誌の目次情報の送信、外部データベースへの接続など)を持っています。

有料の電子ジャーナルの契約について、各出版社は単独での契約よりも複数の機関で形成するコンソーシアムに対して、金額の面でもアクセス可能なタイトル数でも有利な条件を提示しています。現在国立大学図書館協議会では「電子ジャーナル・タスクフォース」を設置して、主要出版社に対して価格や提供条件などの交渉を続けています。

表2. 主要出版社の電子ジャーナルパッケージ

出版社	サービス名	全タイトル数	利用可能タイトル	冊子体
Elsevier	Science Direct	約1200	ライセンスの種類により冊子体購読タイトルの一部から全タイトルまで4段階	ライセンスの基準金額算定の要素
Springer	LINK	485	全タイトル	継続が前提
Blackwell		276	全タイトル	継続が前提
Academic Press	IDEAL	約300	全タイトル	ライセンスの基準金額算定の要素
Wiley	Inter Science	約300	冊子体購読タイトル コンソーシアム参加の場合、契約金額により全タイトル利用可	オプション扱い

有料の電子ジャーナルパッケージを利用すれば、冊子体の金額に若干上乗せした金額で冊子体非購読のタイトルも利用できるようになります。このことにより、購読タイトルの減少を食い止め、逆に利用できるタイトルを増加させることも可能となります。そのためには、継続が前提となっている冊子体購読の維持を含めて、パッケージ契約の費用を継続的に確保する必要があります。

電子ジャーナルを活用し、安定した学術情報の基盤を確保するためには、全学共同で有料電子ジャーナルを維持する新しい枠組みが必要であると考えられます。

学外利用者への図書の館外貸出実施について

信州大学は、「21世紀の大学像と今後の改革方策について」(平成10年10月26日大学審議会答申)等を踏まえ、平成11年1月に設置された大学改革推進本部を中心に大学改革に取り組んでいます。附属図書館も、「大学審議会答申に対応する附属図書館の改革実施取組みについて」(平成12年12月8日信州大学附属図書館運営委員会策定)を取りまとめ、大学改革に一定の寄与を目指しています。これらのなかで、地域社会への貢献は改革の重要な柱となっています。

一方、これまで附属図書館が行ってきた具体的な市民サービスは、館内開架資料の閲覧、複写、参考調査、或いは、OPAC(蔵書検索)等のホームページ上の情報提供にとどまっていました。

地域社会に開かれた大学図書館として、学外の利用者へのサービスを拡張することは、信州大学の大学改革の方向性と同期を有するものです。更に、近年の生涯学習の高まりに対して県内唯一の国立大学図書館として一定の役割を果たし、また、地域社会からの要請に応えるためにもサービス内容の拡張は重要な課題とされてきました。

以上のことから、教育研究に支障のない範囲において、また、条件の整った館から、学外の利用者への図書の館外貸出を実施することが、7月の「学術情報・図書館委員会」で承認されました。実施は各館毎に決められることとなりますが、中央館(松本市旭団地)では、10月から下記のとおり実施することになりました。

なお、各分館の実施内容は中央館と多少異なる場合がありますので、詳細は各分館にお問い合わせ願います。

<http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/gakugai/ippantop.html>

実施内容

- 1) 対象者 原則として、県内在住で来館可能な満20歳以上の成人とする。

なお、信州大学市民開放授業受講生も対象者とする。

- 2) 対象資料 館内に開架している一般貸出対象資料。

- 3) 貸出条件 冊数:2冊以内、期間:14日以内

- 4) 罰則 学内利用者と同じ扱いとする。

- 5) 実施期間・時間 中央館の開館期間・時間と同じとする。

(本学の定期試験期間は貸出を行わない場合がある)

- 6) 登録受付方法 カウンターへ本人が申込書を提出し、図書館利用証の登録をうける。

- 7) 登録受付時間 開館時間と同じとする。

- 8) 本人確認事項 氏名、住所、年齢が確認できる書類を持参する。

信州大学市民開放授業受講生は受講証で確認する。

- 9) 有効期限 発行の日から一年。

- 10) 担当係 情報サービス課資料サービス係。(TEL 0263-37-2178)

なお、来館の際は駐車場が確保できないため公共交通機関をご利用ください。

新 SwetScan について

約 14,000 タイトルにおよぶ外国学術雑誌の目次データをデータベース化し、雑誌目次データの検索に加え、雑誌タイトル、論文タイトルの新着情報を任意に e-mail 配信するシステムが Swet Scan です。

この情報は、毎日オランダのスイッツ・ブラックウェル社が制作するデータを本学附属図書館のサーバが受信し、検索用インデックスなどを自動生成して、附属図書館のホーム

ページ (URL <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/>) から、学内 LAN に接続しているクライアントを通してサービスしています。

平成 11 年 1 月にサービスを開始して以来、検索語と目次情報は日々充実が図られ、生成した検索インデックスはすでに 7,300 万件以上に及び、目次データの分野構成は、医学・工学を含む自然科学分野が 60%、その他の人文社会科学分野が 40%と、運用当初に比べ、収録データの分野格差が小さくなってきました。また、2 月に図書館情報システムの更新を行い、OPAC と同じ検索フォームを使う検索インターフェースによって利用負担を軽減しましたことも大きな改善点と言えます。

しかし、その反面、各検索条件登録ログイン画面等で要求される「カード番号」という利用者にはわかりにくい操作があります。「カード番号」とは図書館資料をカウンターで借受する場合に必要な「図書館利用証」の番号です。学生証のように統一されたカード(例えば身分証明証)が教職員にはないために、少しわかりにくい表現となっております。

お詫び

SDI の E-mail 配信のうち、新着雑誌目次情報の配信は雑誌名の配信に止まり、新着雑誌の巻次年月次に相当する目次配信がなされない不具合があり、ご迷惑をお掛けしておりましたが、9 月 12 日からサービスを開始いたしました。また、論文タイトル検索の際に著者名検索すると第一著者のみがヒットし、第二著者以降では勝手にワイルドカードが付いたかのような結果が戻ってきます。現在、誤動作を起こしているプログラムの修正を終え、検索インデックスの入れ替えを進めております。利用される皆さんに大変ご迷惑をお掛けしていますが、もう暫くお待ちください。

お知らせ

◆平成12年度 図書目録遡及入力 実施結果◆

	冊数	対象分野等
中央館	9,000	人文科学：2,700、社会科学：2,550、自然科学：3,600、その他：150
	20,000	経済学部資料室
教育学部分館	3,108	全て教育学
医学部分館	1,047	全て医学
工学部分館	2,488	全て工学
農学部分館	1,482	社会科学：1,110、自然科学：1、技術：741、産業：747
繊維学部分館	1,169	全て自然科学
医短図書室	5,787	全て医学
合計	44,081	

本学関係者著作寄贈図書一覧 (平成13年3月～8月)

ご寄贈下さいました皆様にお礼申し上げます。

館名	書名	発行者	出版年	寄贈者	所属
中央館	構想大学デザイン学部	プレジデント社	2001	横井 紘一	繊維学部
	講説 民法(債権総論)	不魔書房	2001	後藤 泰一	経済学部
	グローバル・エコノミー	有斐閣アルマ	2001	金 早雪	経済学部
	偏見というまなざし —近代日本の感性—	青弓社	2001	和田 敦彦	人文学部
	いま、生と死の教育を問う —21世紀を生きるあなたへのメッセージ—	信州大学教育学部附属 教育実践総合センター	2001	筒井 健雄	教育学部
教育学部分館	大学とボランティア：スタッフのための ガイドブック	内外学生センター	2001	平野 吉直	教育学部
	現代調理学	医歯薬出版	2001	栗津原宏子	教育学部
工学部分館	センサ工学概論	朝倉書店	1991	小沼 義治	工学部
農学部分館	信州ふるさとの自然再発見	ふるさとの自然21 推進委員会	2001	環境自然 保護課	
繊維学部 分館	新無機材料科学	化学同人	1990	高須 芳雄	繊維学部
	構想大学デザイン学部	プレジデント社	2001	横井 紘一	繊維学部

◆◇ 利用者の声から ◇◆



図書館では利用者の皆さんからのご意見・ご要望を随時受け付けています。お寄せいただいたご意見・ご要望を真摯に受け止め、出来る限りそれにお答えし、図書館の更なる向上に努めたいと考えています。

花信第10号から『利用者の声から』と題して、図書館にお寄せいただいたご意見・ご要望の中から幾つかをピックアップし、図書館からの回答を載せて利用者の皆さんにご覧いただき、ご理解・ご支援をお願いしたいと考えています。ぜひ利用者の皆さん、このページに目を通してみてください。

パソコンやプリンタを増設して欲しい (中央館)

★回答★

現在、中央館には17台の情報検索用パソコンが設置されています。パソコンのOSはWindows2000が10台、Windows98が4台、Windows95が3台です。17台のうち、蔵書検索OPAC専用のものは3台あり、うち1台は3階の閲覧室に設置されています。またお持ちのノートパソコンを持参すれば、無線方式(PHS)でネットワークを利用することもできます。PHS通信カードはWindows95/98対応です。利用方法についてはお気軽にカウンターにお尋ねください。

図書館としては、昨年度の図書館情報システムリプレイスの際にWindows2000のパソコン10台を増設するなど、パソコン増設に努力はしておりますが、予算面から図書館という一部局では利用者の皆さんにとって十分なパソコンやプリンタを提供することは困難な状況にあります。

図書館にあるパソコンは学習・研究に必要な情報検索のために設置されていますが、その他の目的で利用されている方も多いようです。学内に学生の皆さんが自由に利用できるパソコンがあまり設置されていないということもあり、試験期間ともなると授業提出用レポートの印刷でパソコンが混雑し、印刷用紙も大量に使用されている状況です。また長時間インターネットを使用したり、プリンタから不必要と思われるものを大量に出力して、そのまま放置していくケースも目立ちます。

パソコンは利用者の皆さん共有のもので、利用際には利用マナーを遵守してください。

① パソコンを長時間利用しない。利用時間の目安は一人30分です。

② プリンタの使用は出力枚数を最小限(目安として一人10枚くらい)に抑える。

現在プリンタ用紙は図書館で提供していますが、今後もプリンタからの不必要な出力が続く場合は撤去も含めプリンタの制限をせざるを得ません。

③ 蔵書検索(OPAC)以外で利用する方は必ず『パソコン利用票』に記入して下さい。

記入するのは面倒だという方もいると思いますが、この『パソコン利用票』により利用統計を取っています。この利用統計はパソコン増設のための重要な資料となりますので、ぜひ利用者の皆さんのご協力をお願いします。

コピー機を増設して欲しい・カラーコピー機を設置して欲しい (中央館)

★回答★

中央館にコインとプリペードカード併用のコピー機を1台増設しました。

図書館のコピー機はプリペードカード式だったためにプリペードカードを持っていない方には生協購買までカードを買いに行ってもらおうというご不便をおかけしていましたが、増設されたコピー機はコインでも使用できますので、プリペードカードのない方も図書館でコピー機を利用することができるようになりました。

カラーコピー機については、要望があり図書館でも導入を検討してきましたが、業者に打診したところ需要が見込めないため導入は無理との結論になりました。どうしてもカラーコピーを希望される方は、資料を一時的に貸し出すこともできますのでカウンターにご相談ください。

なお、図書館のコピー機は館内資料をコピーするために設置してあります。著作権を遵守しコピーをしていただきますので、必ず『コピー申込書』に記入をしてからコピー機を利用してください。

分館だより： 分館の現況

繊維学部分館

繊維学部は、明治45年(1910年)に設立された「上田蚕糸専門学校」を前身に、蚕糸に関する最初の高等教育機関として、また、長野県下初の国立学校として設立されました。昭和19年(1944年)に「上田繊維専門学校」と改称、昭和24年(1949年)の学制改革により信州大学繊維学部として発足し、現在に至っています。繊維学部分館には、「上田蚕糸専門学校」時代の蔵書が多数残されています。

「上田蚕糸専門学校」所蔵図書は明治期後半から昭和初期の図書が大半を占めます。中には、佐貝義胤著『養蠶事實』(賭春堂, 1873.8、全3巻)や浦川親満著『養蠶事誌』(内藤傳右衛門, 1875.2)といった1世紀以上前の図書もあり、幕末から明治初期の頃の図書も少なからずあります。蔵書の内容は、やはり蚕糸学や工学分野のものが中心です。古く変色してしまった図書を恐る恐る開くと、旧仮名遣いや言い回しに歴史が感じられます。いずれも当時の最先端工業であった蚕糸業を知る上で貴重な資料です。

図書館の資料は、当時も現在と同じように内容により分類され、配架されていました。図書の背ラベルに書いてある最上段の数字が分類番号です。現在は日本でもっとも広く普及している「日本十進分類法」(日本図書館協会)新訂8版を採択していますが、当時は独自の分類法を作り、それにより分類をしていました。類目表(第1次区分)を比較してみましょう。

	上田蚕糸専門学校図書分類法	日本十進分類法 新訂8版
0	総類、雑載	総記
1	宗教、教育、哲学、修養	哲学
2	法政、経済	歴史
3	蠶絲學	社会科学
4	理學	自然科学
5	博物、數學	技術
6	工學、醫學	産業
7	社會、風俗、産業	芸術
8	歴史、地理	語学
9	語學、文學、藝能	文学

蚕糸学を1分野としているのが特徴的です。日本十進分類法 新訂8版では、586(繊維工学)、630(蚕糸業)にあたります。

現在は大半を書庫で保管していますが、主要な蚕糸学分野の図書(全871冊)は現在も分館内(開架室1階東側奥)に配架してあります。興味がある方はご来館の上、ご自由に手にとってみて下さい(古い資料ですので、貸出はしません。館内でご利用ください)。所蔵資料全体の目録としてはカード目録があります。蚕糸学分野の図書については信州大学オンライン所蔵目録(OPAC)^{*1}や国立情報学研究所のWebcat^{*2}でも検索することができますので、興味のある方は是非検索してみてください。古いものの中に思いがけない発見があるかもしれませんよ。

*1 <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/opac/>

*2 <http://webcat.nacsis.ac.jp/webcat.html>

業務日誌

平成13年 _____

- 3月16日 人文・経済・理学部運営委員懇談会 (附属図書館会議室)
- 3月21日 全学図書関係係長会議 (平成12年度第3回)
- 3月22日 平成12年度第3回図書館講演会：テーマ「米国大学図書館の情報リテラシー教育」
講師：千葉大学附属図書館 鈴木宏子 氏
- 4月5日 平成13年度新2年生対象図書館利用ガイダンス実施 (農学部分館)
- 4月9-10日 「平成13年度新入生図書館利用ガイダンス」実施 (中央館)
- 4月23日 平成13年度新2年生のための図書館オリエンテーション実施 (農学部分館)
- 4月26-27日 第52回北信越地区国立大学図書館協議会 (金沢市/館長、事務部長、情報管理課長)
- 5月23日 館長・分館長懇談会 (附属図書館館長室)
- 5月29日 平成13年度国立大学附属図書館事務部課長会議
(東京医科歯科大/事務部長、情報管理課長、情報サービス課長)
- 6月11-15日 平成13年度授業公開に伴う附属図書館案内 (全学)
- 6月19日 学術情報・図書館委員会 (平成13年度第1回 SUNS 使用)
- 6月27-28日 第48回国立大学図書館協議会総会 (北海道大/館長、事務部長、情報サービス課長)
- 7月4日 人文・経済・理学部委員懇談会 (附属図書館会議室)
- 7月6日 長野県図書館大会企画委員会 (長野市/情報管理課：金井)
- 7月12日 館長・分館長懇談会 (附属図書館館長室)
- 7月17日・19日 平成13年度大学図書館職員長期研修講義のSCSによる受講
(学内各館室職員・県内大学短大図書館職員)
- 7月23日 学術情報・図書館委員会 (平成13年度第2回 SUNS 使用)
- 7月25-27日 平成13年度図書館等職員著作権実務講習会
(東京大/資料サービス係：淵井、繊維学情報係：武田)
- 7月30日 情報セキュリティセミナー (文部科学省/情報管理課長、学術情報係：手塚)
- 7月31日 全学図書関係係長会議 (平成13年度第1回)
- 8月9-10日 電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会 (千葉大/資料サービス係：犬浦)
- 9月4日 附属図書館防災訓練
- 9月7日 平成13年度新CAT/ILLシステム説明会及び学術雑誌総合目録欧文編データ更新説明会
(名古屋大/雑誌情報係：波止、学術情報係：手塚)
- 9月20日 学術雑誌総合目録欧文編データ更新説明会 (附属図書館会議室)

人 事 異 動

日 付	区 分	新 官 職 名 等	氏 名	旧 官 職 名 等
13.3.30	辞職		塚田 昭	医学情報係事務補佐員 (時間外担当)
	辞職		田中豊實	繊維学情報係事務補佐員 (時間外担当)
13.3.31	辞職		大槻修子	繊維学情報係
13.4.1	転入	情報管理課長	米澤章雄	金沢大学附属図書館情報 サービス課長
	転入	学術情報係長	手塚久盛	山梨大学附属図書館電子 情報係長
	転入	繊維学情報係	渡邊彰宏	長野工業高等専門学校 庶務課図書係
	転入	医学情報係	伊藤葉子	人文・経済学部学務第2係
	館内異動	雑誌情報係長	桃井栄一	資料サービス係長
	館内異動	資料サービス係長	淵井正文	学術情報係長
	館内異動	総務係	清水幸直	工学情報係
	館内異動	工学情報係	鈴木史子	農学情報係
	館内異動	繊維学情報係	滝口智子	工学情報係
	館内異動	教育学情報係	鳴澤直子	繊維学情報係
	転出	長崎大学附属図書館情報管理課長	重里信一	情報管理課長
	転出	山梨大学附属図書館電子情報係長	城倉眞一	雑誌情報係長
	転出	学生部学生課共通教育総務担当専門職員付	窪田順子	医学情報係
	転出	長野工業高等専門学校庶務課図書係	春原幸江	教育学情報係
	採用	学術情報係事務補佐員	高橋千明	
	採用	資料サービス係事務補佐員(時間外担当)	永山葉子	
	採用	資料サービス係事務補佐員(時間外担当)	李 実英	
	採用	教育学情報係事務補佐員(時間外担当)	安藤康智	
	採用	医学情報係事務補佐員(時間外担当)	戦 華	
	採用	医学情報係事務補佐員(時間外担当)	阮 宗海	
	採用	医学情報係事務補佐員(時間外担当)	簡 明源	
	採用	繊維学情報係事務補佐員(時間外担当)	中村毅彦	
	採用	繊維学情報係事務補佐員(時間外担当)	高田崇志	
13.6.30	辞職		赤廣春枝	図書情報係事務補佐員
13.7.1	採用	図書情報係事務補佐員	小山優子	
13.9.1	転出	山形大学附属図書館情報管理課長	菅原英一	情報サービス課長
	転入	情報サービス課長	長友良維	千葉大学附属図書館情報 サービス課図書館専門員

信州大学学術情報・図書館委員会名簿

平成13年9月1日現在

所属等	氏名	備考
副学長	村山 研一	委員長
附属図書館長	野村 俊明	附属図書館運営専門部会長
教育学部分館長	益地 憲一	附属図書館運営専門部会
医学部分館長	村瀬 澄夫	学術情報専門部会長
工学部分館長	土屋 良明	附属図書館運営専門部会
農学部分館長	柴田 久夫	附属図書館運営専門部会
繊維学部分館長	平井 利博	附属図書館運営専門部会
人文学部助教授	吉田 正明	附属図書館運営専門部会
人文学部助教授	轟 亮	学術情報専門部会
教育学部教授	和田 哲也	学術情報専門部会
経済学部教授	都筑 勉	学術情報専門部会
経済学部教授	村上 範明	附属図書館運営専門部会
理学部教授	西田 憲司	附属図書館運営専門部会
理学部教授	手塚 洋	学術情報専門部会
医学部教授	佐々木 克則	附属図書館運営専門部会
工学部助教授	杉村 立夫	学術情報専門部会
農学部助教授	廣田 満	学術情報専門部会
繊維学部助教授	松瀬 丈浩	学術情報専門部会
総合情報処理センター長	海尻 賢二	学術情報専門部会
医療技術短期大学部教授	本郷 実	学術情報専門部会
附属図書館事務部長	湯本 一義	附属図書館運営専門部会

注) 委員会の下に附属図書館運営専門部会及び学術情報専門部会が設置された。
委員以外から附属図書館運営専門部会には附属図書館情報管理課長(米沢章雄)、学術情報専門部会には附属図書館情報サービス課長(長友良維)が加わる。

花 信 第10号 2001年9月30日 [年2回発行]

■編 集 花信編集委員会(長友良維・金井忠彦・波止教史・犬浦恭子・伊藤葉子)

■発 行 信州大学附属図書館

〒390-8621 松本市旭3-1-1

TEL0263-37-2174・FAX0263-33-5833

URL : <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/>

E-mail : nagatom@gipac.shinshu-u.ac.jp